

令和5年  
7月号

あじさい園 ショートステイ

## ゆめあじさい

社会福祉法人晃宝会

特別養護老人ホームあじさい園

<http://www.aiisaien.or.jp/>



竹中功さんはニュースタークリエーション、よしもとNSSC、あの有名なお笑いの学校を作られた方です。1980年漫才ブームとなり、大阪の漫才が東京でうけ、本拠地大阪の芸人不足となり、学校を作ることになり、竹中さんは、よしもと入社半年目、22歳の時、担当になりました。それまで芸人さんは、弟子として師匠の家で寝食を共に学んでいました。時代がそぐわず、学校で授業料を払って、指導をおおぐこととなり、NSSCが設立、1期生には、ダウンタウン、トミーズ、ハイヒールさんがおられます。竹中さんのお話で印象に残ったのは「だれもが一番になれる」「コミュニケーションとは良き人間関係の構築」です。ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン、他とは違うという意味での一番、その違いは個性と魅力であり、その個性と魅力を磨いていこうと。同じお土産を売るA店とB店、なぜかB店がよく売れます。B店のC店員さんは、お客様に地域の、お役立ち情報を教えてくれて、その上人なつくく楽しい人、するとお客様は、Cさんに気持ちがお向いて「おばさん、ありがとう」とお土産を買って帰られるそうです。また、売れ続ける、明石家さんまさんとダウンタウンさんのことについては、時に「今日はうけなかったね」と正直に伝えると、きまってる。「新しいネタ考えます」と自分を認め、自分の責任と考える、変わることが出来る人です、と言われていました。それをそばで見ている「変わることが生きる力」「変わることに平気な人は最強だ」とオンリーワンを感じるそうです。コミュニケーションについては、言葉のキャッチボールからはじまり、心のキャッチボール、良き人間関係を構築、相手をおもんばかりながら、楽しくゆかいに、それぞれの想いや願い、精神さえも交換、共感力を育み、いっしょにいて楽しいと笑顔の伴う感情を大切にしましょう、と。とは言え、相手の印象を決めるのに、要する時間は0.1秒、視線、口元、首、手、身体の動きを見て感じます。0.1秒で感じておられる、目の前の人に私たちは、いかにして笑顔と安心をお届けできるでしょう。近年はコミュニケーション力を重視されてきましたが、ここ数年は、コミュニケーションをとらずに、働きたいという人もあります。時代の流れで否定はできませんが、本来の意味での、コミュニケーション力を磨く大切さを、あらためて学びました。そして竹中さんは、入社すぐの大役にとまどいはした。「なんでも、やってみよう」とチャレンジしたことは幸運だったとも、ふりかえっておられました。

6月16日 食事会(なすと豚バラのみそ炒め)を行いました。

旬のなすびと豚バラを使って、味噌炒めを行いました。

お味噌の香りが食欲をそそり、皆様美味しかったと喜ばれていました。



平素、ご利用者さま、ご家族様、地域皆様には大変お世話になりありがとうございます。

今回、利用中のマスクについて、マスクの着用を任意とすることとなり、現在の、施設からのマスクの用意と交換を終了する予定となっています。今後は、利用中はマスクをしておきたいと希望される場合は各自でご用意をして頂くようになります。詳しい終了時期などについてはまた改めてご連絡させていただきます。

ショートステイ主任 中久保 久仁・感染症対策委員会